

令和4年9月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

9月は、台風接近の影響が一部にはあったものの、新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向にあったことから人の動きが回復し、多くの業種において売上・受注が好転している。

一方、物価、原材料費、電気料金の高騰はあらゆる業種に影響を与え、価格転嫁が追いつかない、円滑な転嫁が不安あるいは困難としており、収益を圧迫してきていることから、景況DI値はわずかな改善にとどまった。

今後も、原材料費等の高騰は続くと思われ、また、人手不足や最低賃金引き上げによる人件費増加などのへの対応もあり、経営環境のさらなる悪化を懸念する声が多く寄せられている。

山口県の主要指標 DI 値（令和4年9月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転： 2.5% 悪化：36.3% DI 値： ▲33.8% ポイント
売上高	(< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、増加：15.0% 減少：30.0% DI 値： ▲15.0% ポイント
収益状況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転： 2.5% 悪化：40.0% DI 値： ▲37.5% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和4年9月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲50.0	▲50.0	▲66.7	▲50.0	▲33.3	0.0	0.0	▲31.3
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製 造 業
▲20.0	▲50.0	▲60.0	▲27.3	▲36.4	▲28.6	0.0	▲35.4
							

全 体
▲33.8


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	<p>売上を期待した3連休は台風の影響で壊滅的であった。公共交通機関に店舗を構えたり卸したりする組合員だけでなく、本店等の店舗を休業するなど、ほぼすべての組合員に影響があった。</p>	<p>パン・菓子製造業 山陽小野田市</p>
	<p>電気・ガスの高騰が続き、原材料の仕入れ価格も上昇している。</p>	<p>パン・菓子製造業 下関市</p>
	<p>水産加工原料の水揚げが激減して異常な現象である。人手不足で人件費が高騰している。</p>	<p>水産食料品製造業 長門市</p>
	<p>コロナ禍の業況は、組合員の業種によって、変わらない組合員と季節的に厳しい組合員とに分かれる模様。入国制限が緩和され外国人技能実習生の入国が始まり、生産量等の回復は見込めるが、最低賃金の大幅な引き上げがどう収益に影響するか注視している。新型コロナウイルスの感染者も減少し、市場の動きは止まっていないので、売上げに関しては少し回復しているが、円安や材料・資材の高騰で利益的には厳しくなっていると思われる。</p>	<p>水産食料品製造業 下関市</p>
	<p>燃料費の高騰により製品価格を多少上げたが、焼け石に水で収益は相当悪い。</p>	
	<p>台風接近による休業を余儀なくされ、売上が伸び悩んだ。原材料(特に食用油)、プラ梱包材そして水道光熱費の値上げがじわじわと収益に絡んできているのを感じる。本当の正念場はこれから。地道に節約をしていくしかない。</p>	<p>食料品製造業</p>
	<p>コロナウイルス感染も縮小傾向、飲食店等もほぼ通常営業となり、売上の減少は軽微なものとなった。原油価格の大幅な上昇とウクライナ情勢による原材料不足等で、製造原価他コストが上昇し、事業活動がさらに苦しい状況となっている。9月初旬に大型台風が上陸し、今後の天候災害に関する被害の拡大を懸念している。ロシアがウクライナに侵攻し6カ月が経過したが、全く終息する気配は無く、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。また、ウクライナは世界有数の穀倉地帯でもあるので、食料不足に伴う穀物価格も上昇している。政府の、原油価格の上昇に伴う損失補填も限界にきているようだが、更なる対策費の上乗せと食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要と思う。</p>	<p>精穀・製粉業</p>
繊維工業	<p>現地へ行けず、オンラインで外国人技能実習生の面接を行っている状況。</p>	<p>下着類製造業</p>
	<p>今後コストアップによる価格転嫁を円滑にできるかが不安である。</p>	<p>外衣・シャツ製造業</p>

木材・木製品	<p>建築・木材業界全体の低迷により地域の工務店は皆四苦八苦の状況。ウクライナ紛争でロシア材が入荷困難となり、赤松材が不足。関連商品の高騰・品薄と原油高や円安による便乗値上げと思われるものもあり、いい思いをしているのは、為替レートが関係する大手企業だけに思える。建築業者の話では、「土地でも持っていれば新築もあるが、リフォーム工事が少々ある程度。」とのこと。組合の活動は皆無である。</p>	製材業・木製品製造業 岩国市
	<p>当組合のコロナウイルスによる影響が出始めた時期は令和2年4月以降である。組合員の平均売上額は、コロナ前の令和元年9月に比べ20%の減少、コロナ禍の令和3年9月と比べ10%の減少だが、増加傾向の事業所と依然減少が続く事業所とが混在している状況。木材価格の推移としては、依然として高止まり傾向のため、買い控えが続く状況である。</p>	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	<p>売上は増加したが、原材料の高騰が続き、受注金額に反映できない分横ばいになる。6月7月に続き、再度用紙が値上がりし、顧客に説明をするがなかなか納得してもらえない状況である。</p>	印刷業 山口市
	<p>日米金利差拡大で加速的に進む円安により、輸入品の価格の実質的な上昇が国内の物価上昇に多大な影響を及ぼしているが、印刷業界においても、原材料の高騰は企業収益を悪化させている。具体的には、紙、アルミ版、インキといった印刷業には必要不可欠な物品の価格が軒並み10%~20%上昇しており、中小企業にとっては深刻な状況である。値上げの要因は様々であるが、それらの製造の元となる原材料が国際情勢により入手困難となっている事と、大企業の収益確保のしわ寄せが中小企業へ来ていることが大きな要因と考えられる。今後は国として、国内外へ対する物価安定のための経済、金融施策を中心とした対応が必要不可欠であると思料する。</p>	印刷業 下関市
窯業・土石製品	<p>10月より原材料のセメント、砕石、砂が値上げされ、その他材料も毎月値上げがある。当組合は令和3年11月に約10%値上げをしたが、現在の状況はそれ以上にコストがUPしており、再度、値上げの計画をしている。</p>	コンクリート製品製造業 防府市
	<p>重油、鋼材価格の上昇により利益が圧迫される現状が続いている。顧客への値上説明を継続しており、いくらか前進（全体の15%程度）したように感じる。10月に入ると賃金アップもあり、より厳しい状況となるので、引き続き値上説明を行うように組合内で申し合わせている。</p>	コンクリート製品製造業 柳井市
	<p>出荷量は、前月比93%、前年同月比103%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は県内で上昇傾向である。</p>	生コンクリート製造業
	<p>県外からの移転や撤去の依頼が相変わらず多い。将来的にかかる負担を考えてお墓の撤去を提案するが、「母が作った墓なので残したい」等の事情により移転を選択される。</p>	石工品製造業
	<p>9月の売上高は、小売は昨年と変わらず。「旅々や</p>	陶磁器・同関連

	まぐち県民割り（ブロック割）」や「萩市の観光クーポン」が小売の売上を下支えしている。卸売は好調で、特に中国向けの輸出が増えてきており、前年比では大幅アップとなった。複数の窯元では、原材料費（釉薬）・燃料費の値上げに伴い、卸価格を約 10%程度値上げするところも。また紙箱、紙袋、緩衝材の価格も約 10%～20%程度値上げとなっている。	製品製造業
一般機器	9月は周南地区コンビナートの大型定期補修工事が始まり繁忙期となった。まだ新型コロナウイルス感染者、濃厚接触者が多いため、人手の確保に苦労している。県外からの出張者も含めるとかなりの人数となり、引き続き、感染対策に気をつけて業務する。	一般機械器具製造業 下松市
	受注量は月毎に波があるが、既に令和5年8月までの受注が生産力の7割～8割埋まり、ここ30年で初めての好調な状況である。今後は、世界的な新型コロナウイルスの鎮静と強烈的な円安とで、日本の輸出産業、海外の石油化学プラント業界は、さらに受注が増えても良いように思えるが増えていない。原材料、仕入単価の高騰が続いている。購入品の長納期が多く、工程の組み方や部品の保管等に苦労しており、人手不足もあって製造が進まない、設備投資ができない等で、定期修理工事を外注業者に応援してもらい対応している等深刻な状況である。熟練工の不足、高齢化もあり、人材確保に苦労している。	一般機械器具製造業 防府市
	新型コロナウイルスについては経済との共存政策の進展により回復基調にある。しかしながら、円安、ロシアのウクライナ侵攻に伴う資源高、資源不足が徐々に経済に影響を及ぼしてきており、特に電気料金のアップは影響が大きく、太陽光の設置等の対応策をとる企業もある。人材確保の面では、事務が輻輳し手続きが遅れていたが、外国人技能実習生の受入がほぼ順調に動きだしている。円安の影響は大きく、欧米、カナダ、台湾、韓国との人材確保競争は厳しく、国内でも都会の高賃金に対抗できず募集しても人が集まりにくい状況である。さらに、企業にとっては航空便のアップが大きな負担となっている。	一般機械器具製造業 宇部市
大きな変化は見られず、一進一退の状況が続いている。		
輸送機器	鉄道車両関係の現状は順調に推移している。外国からの受注は1～2年間は確保されているが、国内受注は一部の部品製造において減少傾向である。コロナ禍において鉄道輸送業界は減収となっており、新車両の生産は計画から2年程度かかる事から、近い将来受注はかなりの減少見通し。半導体は、例年の2～3倍の受注量で引き続き好調。工場新設および増設による生産高のアップを見込んでいる事業所も3～4社あり、順調に推移の見通し。原材料や燃料費の高騰が相次いでおり、価格転嫁がすぐには厳しい状況で、交渉を継続中である。	鉄道車両・同部品製造業

卸売業	倉庫売上は、カキの出庫が例年より多く在庫が減少しているため、前年同月比微減である。肉、いりこの売上の落ち込みがあり、コロナ前よりはやや減少している。電気料金が1.5～1.6倍高騰により、厳しい運営を余儀なくされている。	乾物卸売業
	原材料費の高騰により利益があまり見込めない企業が増えたようである。	各種商品卸売業 防府市
小売業	9月中頃から新型コロナウイルス感染者が減少するにつれ、少しずつ化粧品の売上が伸びてきた模様。インショップなどでは、ポイント還元やポイント倍率時の売上は増加するが、平日は以前に比べて厳しい状況。日本メーカーは値上げをしていないが、外資系メーカーは値上げをしておりいずれは日本メーカーも値上げすると思われる。昨今、手軽な化粧品を贈り合うカジュアルギフト(プレゼントを贈り合う)が流行り、会員数を増やしている店舗もある。10月からの生活必需品の値上げによる買い控えが危惧され、戦々恐々としている。	化粧品小売業
	台風14号の被害はなかった。9月家電全体の売上は低迷だが、残暑の影響でエアコンの販売が好調である。前年比横這いの状況。	機械器具小売業
	前年同月比約133.8%の売上増。売上内訳では駐車料売上・駐車サービス券売上が前年比増加、ホール売上が減少となった。	各種商品小売業 周南市
	昨年は新型コロナウイルスによる行動制限と悪天候で売上が低迷したが、今年はお盆期間を中心に好調に推移、対前年+30%と大きく伸びた。9月25日時点の累計売上は対前年比で、ほぼ同等の推移だが、今年台風や荒天で2日間臨時休業したので、その分営業出来ていれば、10%程度アップしたと見なしている。	各種商品小売業 萩市
	9月の供給高は前年比101.6%、来店者数97.0%。来店者は減少しているが、下関市地域振興券の使用により供給は伸びている。台風14号通過後、開店したが、来店者は36名であった。	各種商品小売業 下関市
商店街	感染拡大は対処が追いつかない状況になり、対策は諦めムードで、新たな投資を行う気配はない。少しずつ客足が戻りつつあるが、高齢者、公務員、学校、医療福祉関係、大手企業を中心に警戒心は解かれない様子。一部の飲食店では10人程度の宴会が戻ってきたが、まだ大きなムラが見られる。今後は秋に向けて宴会等も戻ってくると思われる。ただし、濃厚接触の定義変更と陽性者数の発表をやめない限り、現況は変わらない。	岩国市
	気候、新型コロナウイルス共にやや落ち着きが見られ、プレミアム商品券の使用も始まり、今後の消費の動きに期待したい。	宇部市

	季節的に涼しくなり、商店街の売上は少し伸びている模様だが、「8月に比べ20%は低下している。9月は涼しくなるが、新型コロナウイルスが収まっておらず人出が期待できない。生活が出来ていけるだろうか。業界全体でも売上は低迷している。」と洋品店の店主は話す。	萩市
	10月「時代祭り」、11月「プレミアム商品券販売」とイベントが控えており、商店街一丸となって販促に繋がるよう準備を進めているところである。9月は3店舗の新規開店があり、新型コロナウイルス感染者も減ってきている関係か、商店街の人通りが増えてきている。	下関市
サービス業	台風等で気象変動が激しかったが、台風一過、大変涼しくなり過ごしやすくなって来客が減少した模様。9月前半は前年比120%の伸びであったが、後半になって落ち込み、収支はとんとんになる見込み。	美容業
	経営状況は良くなりつつあるが、各種原材料、資材の高騰が、経営環境の悪化を招いており、価格転嫁もできない状況。	理容業
	現在販売されている自動車には先進技術が搭載されており、車載電子機器の故障や劣化の把握をサポートするための整備機器（スキャンツール）を整備工場では備えることが必須となっている。しかし、その機器が高額であるため、ここ数年、国が導入補助を行っている。9/1～9/9に申請受付があったが、申請が予算を超過したため、抽選となった。整備機器が、まだまだ行き渡っていない実態も窺え、予算の増額が望まれる。	自動車整備業
	新型コロナウイルスが落ち着いてくれたら回復が見込めると思っていたが、光熱費の価格上昇が痛い。	スポーツ・健康教授業
	業界内の売上は9月も厳しい模様。原材料の高騰により、山口県でも10月から値上げをしている店舗があるが全国に比べると少ない様を感じる。今後の売上と収益状況が気になるところである。	普通洗濯業
	新型コロナウイルスも落ち着き、人の動きも活発になってきた。新型コロナウイルス感染者の増減に影響を受けるので、先の状況を注意深く見極めていきたい。	飲食業
	売上、宿泊人員とも県民割等の施策により前年同月比は大幅増となったが、コロナ前令和元年の同月比で92.3%、宿泊人員は98.7%と下回った。令和元年から、2施設減少したことが要因。売上においては未だ宴会需要が回復していないことも一因と考察できる。	旅館業 山口市
	売上高は前年同月比12%の減額。入浴者数は15%の減少。イベント日には人出の増加がみられるが、継続的な施設利用者の増加には至らなかった。10月からの全国旅行支援等による割引を当てにしているのか、観光客の消極的な姿勢が見られる。	旅館業 長門市
	9月連休は、大型台風の接近でキャンセルが発生したが、週末は全体的に好調であった。10月からの国・市の宿泊補助に期待している。	旅館業 下関市

建設業	中電への工事申請 111 件(当支部 103 件)、前年同月 141 件(同 120 件)。太陽光発電への申請 18 件(前年 25 件)、オール電化申請 52 件(前年 37 件)。LED 街路灯への切り替え・新設申請 14 件(前年 41 件)であった。	電気工事業
	前年比、売上、利益が減少した事業所が多いようだが、手持工事が増えつつあり、徐々に回復するものと予想される。	左官業
	9月の官公需も順調な入札数であった模様。民需の住宅関連の発注もぼちぼちの状況。依然として人手不足は解消できていないが、組合員間で協力しながら仕事を行っている。	管工事業
	急激な円安が及ぼす経済圧力は、殆どの中小企業にとっては、御しがたく、商品や原材料の仕入れに著しい価格上昇が有ることから、売上也伸びず、価格転嫁も容易でなく、個々においては打つ手なしの感がある。経済政策が、一部の大企業には有利でも、多くの中小企業は喘ぐばかりである。先の経済指標では、大企業の内部留保が過去最高を記録したといい、トリクルダウンの経済活性化は一向にない。未だ収束しない新型コロナウイルス、長期化するロシアのウクライナ侵攻、緊張が高まる中台関係など、憂鬱極まりない。	一般土木工事業 柳井市
	9月の受注高は、対前年同月比 66.1%。令和4年度の累計では、対前年比 80.6%。	一般土木工事業 萩市
	上半期の長門地区公共事業受注高は、例年の約5割と非常に少なく、第3四半期の早期発注を望む。燃料費、生コンクリート、アスファルト、鋼材、木材等の建設資材単価が高騰しており、収益への影響が心配される。	一般土木工事業 長門市
	小規模物件が多いが、年内の仕事はなんとか埋まる模様。ただし工場稼働率に空きがでるため、同業他社の仕事等で確保している状況。鋼材・塗料・消耗品などの価格上昇が続き加工コストにかなり影響がでており、見積もりに材料上昇分を転嫁しようとする割高になるため苦慮している。物価上昇分を直ぐに反映したいが難しく、不安要素が増すばかりである。鉄骨だけでなく全ての業種の工事費・資材が高騰しており公共・民間工事ともに入札不調や設計見直しが増えてきて新規案件の成約が厳しくなり、先行き不透明で受注確保を不安視している。	鉄骨・鉄筋工事業
	運輸業	輸送件数はやや上向き傾向にあるものの、収支対比は0.8%の減少。輸出向け、国内向け共に減少だが、前月に比し僅かに増加の傾向がみられた。燃料費関係は横這い傾向で中小輸送業者は厳しい状況。軽油引取税を考慮してほしいとの声が多い。
	自動車関連においての組合輸送取扱高は前年比同程度だが、コロナ不況前の水準には遠く及ばず60%程度の取扱い状況。燃料費は幾分落ち着きを見せ前年比10%の増加。	一般貨物自動車運送業 防府市
	製造業関係が好調で、荷動き、保管案件とも増加が続いている。また、日用雑貨の荷動きも増えている。人員雇用に関しても、入れ替わりが多い状況が続いている。	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+32.1%（令和4年8月1日～令和4年9月20日分）だった。8月1日～31日分は+13.9%、9月1日～20日分は+71.2%。前々年度比では、それぞれ+0.5%、+4.4%、▲4.5%になった。前年度9月はコロナの影響が強く大幅減少、前々年9月はコロナ感染の影響が回復傾向で比較的好調であったためと考えられる。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。8月分については、周南+10.6%、下松+26.3%、光+14.5%、防府市地区は+25.0%で、組合員の全域では+17.6%、地区外（員外）▲6.9%、合計+13.9%（+1,229千円）だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動する。CPは減少した。（前月692.5\$/トンが今月645.0\$/トン、前年660.0\$/トン）、フレート（輸送）コストも減少（前月10,000円/トンが今月9,400円/トン）。為替は円高（前月137.79円/\$が136.24円/\$）。燃料単価は前月より▲5.3%下がったが、前年9月比+11.1%であり、依然として厳しい状況。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足している、台風による移動自粛などもあり、コロナ前（令和元年度以前）の需要の約半分付近で低迷しており、ウィズコロナでやや回復傾向が見えると言った状況。</p>	<p>一般乗用旅客 自動車運送業</p>
	<p>9月もほぼ同水準で推移している。</p>	<p>港湾運送業</p>
<p>その他</p>	<p>山口県内の新型コロナウイルス感染は減少傾向になったが、福祉施設での集団感染や職員・職員の家族の感染もあり、人手は足りていない状況ではあるが、技能実習生を受け入れるだけの余裕もなく、施設全体としても感染状況が落ち着いて通常営業になってより考えられるのではないだろうか。組合としても状況は変わらず、実動が困難な状況。</p>	<p>介護事業</p>